

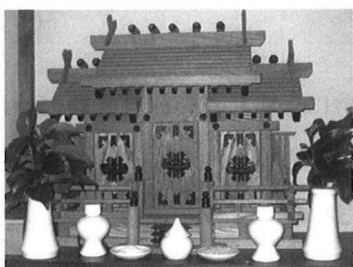


読み物・1

日本人の生活と宗教



- 1 日本語には「苦しい時の神頼み」という言葉がある。何か苦しい事や困った事があると「神様、仏様、どうか助けて下さい」と言って一生懸命お願いするけれど、何もない時は、神様や仏様のことはあまり考えていないという意味である。また、家の中に神棚と仏壇のどちらも置いてあって、朝晩、神様と仏様の両方にお祈りをする人々もいる。神道も仏教も共に生活の中にあるのだ。
- 5 一つの神だけを信じている一神教の人がこのことを聞いたら、どうして神様と仏様を同時に祭ることが出来るのか不思議に思うかもしれない。

神棚
かみだな仏壇
ぶつだん神社の鳥居
とりい

- 日本人の生活を見ると、神棚と仏壇を祭る他にも、もっと色々な宗教的習慣や行事があることに気がつくだろう。まず、お正月には「初詣」といって、人々は神社やお寺にお参りに行き、お守りやお札をもらう。そして、それを車につけたり財布の中に入れたりして、不幸が起きないように、幸福が来るようにと願う。2月には「節分」という行事があって、「鬼は外、福は内」と大声で叫びながら、豆をまく。これは、幸福は家の中に、不幸は外に、と祈る行事だ。また、春と秋のお彼岸や8月のお盆は、先祖を敬う日として、多くの人がお墓参りに行く。
- 10 その他、11月には「七五三」という行事があり、男の子の場合は3歳と5歳、女の子の場合は3歳と7歳になると、親が子供を神社に連れて行く。元気な子供に育ったことを神様に感謝し、そして、これからも健康に育つようにと神様に祈るのだ。

お守り
まも

七五三

節分
せつぶん宗教
しゅうきょう苦しい
くる仏
ほとけ置いて
お両方
りやうほうお祈り
いの神道
しんどう仏教
ぶつぎょう不思議
ふしぎ神社
じんじゃお参り
まい不幸
ふこう幸福
こうふく願う
ねが祈る
いの

12月には、クリスマスの行事を楽しむ。キリスト教信者ではない人でも、クリスマスツリーを飾ったり、クリスマスプレゼントを交換し合ったりして、クリスマスを祝う。また、結婚する時には、式を教会で挙げる人もいれば、お寺や神社で挙げる人もいる。そして、死んだら、たいてい仏教式のお葬式をしてもらって、お墓に入る。

- 20 日本ではなぜこのように色々な宗教が共に存在することが出来るのだろうか。これは、日本に昔からある神道について考えてみれば、分かるかもしれない。神道というのは多神教で、日本では昔から海や山や木や石など、周りの色々な物や場所に神様がいてと考えられてきた。720年に書かれた「日本書紀」という古い歴史の本には、そんな神々についての物語がたくさんある。その神話の神様達は、楽しく歌ったり踊ったり、怒って喧嘩したりして、とても人間的だ。日本
- 25 全国にはそんな神様を祭った神社がたくさんあって、日本人は何かがあると、その色々な神様のところにお参りに行く。

- 例えば、家やビルを建てる時は土地の神様に、いい高校や大学に合格したい時は受験の神様に、恋人が欲しい時は縁結びの神様のところに行ってお祈りをする。目的によって、それぞれお参りに行く神様が違うのだ。最近では、インターネットビジネスのための「ITの神様」なんていう神
- 30 様も現れたらしい。

このように、神道は、自然や場所、物など、あらゆるところに神様が存在するという日本人の宗教的意識を作ったと考えられる。だから、外国から他の宗教や新しい神様が入ってきても、自然に受け入れられたのかもしれない。そして、神道が人々の生活の中で生き続けてきたように、仏教やキリスト教の行事なども、日本人の生活の一部になっているのだ。

- 35 宗教についてのある調査で「あなたは何か宗教を熱心に信じていますか」という質問に「はい」と答えた人は、日本国民全体の9%だけだったらしい。それでは、91%の人は宗教を全然信じていないと言えるだろうか。実は、日本人は宗教を強く信じているという意識はなくても、毎日の生活の中でお参りしたり祈ったり祝ったりするなど、宗教的習慣や行事を大切にしている。そして、そんな人々の生活が、神様や仏様が一緒に存在できる社会を作っていると言えるのではない
- 40 だろうか。

キリスト教 きりすとう	信者 しんじゃ	交換 こうかん	祝う いわ	式 しき	教会 きょうかい	-式 しき	存在 そんざい	石 いし
歴史 れきし	神話 しんわ	怒って おこ	建てる た	土地 どち	受験 じゅけん	恋人 こいびと	現れた あらわ	意識 いしき
受け入れ い	生き い	一部 いちぶ	調査 ちやうさ	熱心 ねっしん	国民 こくみん			